

留学先国名 : オーストラリア

留学先学校名 : University of Technology, Sydney

留学期間 : 平成 28 年 2 月 24 日 ~ 平成 29 年 1 月 24 日

私は 2016 年 2 月末から翌年 1 月末までの 11 ヶ月間、オーストラリア・シドニーの シドニー工科大学 (UTS) に交換留学生として留学していました。UTS では 3 月下旬から 6 月下旬までが秋学期、8 月上旬から 11 月上旬までが春学期となっています。私は秋学期を Australian Language and Culture Course で、春学期は現地の学生と共に Business Course の授業を履修していました。

シドニーに到着した後、私は空港から寮の入り方や履修登録まで様々な問題に直面しました。その多くがインターネットで調べても答えが見つかるものではなかったため、その都度、直接担当の人に聞きに行かなければならず、英語力の低い当時の私にはとても辛いものでした。しかし、シドニーでは何らかの手続きでいろいろなオフィスをたらい回しにされることは日常茶飯事だったので、徐々に、わからないことがあればとにかく尋ねる、わかるまで質問し続ける、という習慣が身につきました。特に、わかるまで尋ね続ける、ということが私はとても重要なことだと思います。やはりオーストラリアの人々の英語はスピードが速く、よほどフォーマルな状況でなければ必ずしも教科書通りのものではないこともあるので完璧に聞き取ることはとても難しいです。しかし、こちらからわからないことをしっかり質問すれば、別の言い方をしてくれたり、ゆっくり話してくれることが多いです。とにかくわからないことをわからないままにせず、その都度解決していくことが大切だと私は感じました。

秋学期は、Australian Language and Culture Course の授業を受けながら、期末に受ける IELTS のために勉強をするというような英語漬けの生活を送っていました。私はスピーキング力がとても低かったため、同じようなノンネイティブの人たちとスピーキングの練習が出来たのでとても良いトレーニングになりました。私は当初、スピーキングにおいても正しい文章を話すことが一番重要だと思っていました。しかしそれに固執するあまり、流暢さに欠けていたため、思うように英語を話すことが出来ていませんでした。ノンネイティブの人たちの喋っている英語が必ずしも正しいわけではなく、とにかくスラスラと話しているということに気づいた時、「簡単な文章で良いからとにかくまずはスラスラと話すことを意識しよう。」と決めました。そこからは英語を話す機会が増えていく中で、自分のスピーキング力を大きく伸ばすことが出来ました。

秋学期では、現地の学生と共にビジネス系の授業を履修しました。一回の授業は 3 時間あり、1 時間半はレクチャーといって大きな講義室でその日のトピックについて教授の説明を聞き、残りの 1 時間半はチュートリアルといって少人数でディスカッションを中心としたグループワークを行うという 2 つのパートに分かれていました。レクチャーでは、その日扱うトピックを授業前に予習していかなければ授業の内容を理解出来ない上に教授の話すスピードが速く、とても大変でした。秋学期の授業の中で最も印象に残ったことは「ヒューマンリソースマネジメント」という授業のチュートリアルでの出来事です。その日のトピックは「男女の雇用

機会の均一化」で、グループでディスカッションをする時間を与えられていました。その進行するディスカッションで私は意見を述べる事が出来ませんでした。するとその日の次のディスカッションからは私以外のメンバーで話が進んでいき、私の方向に背をむけられ意見を聞かれることもありませんでした。そこで感じた疎外感と不甲斐なさは、とにかく自分から意見を述べ積極的に議論に参加しなければならないということを私に気づかせてくれました。その次の週からは自分から積極的に意見を出していくことで、またグループの一員としてディスカッションに参加することが出来ました。しっかりと自分が果たさなければならない責任を果たしていれば必ず認められることはオーストラリアでの生活で感じたオーストラリアの素晴らしいところだなと思います。

1 1ヶ月間の留学で、私は何事にも失敗を恐れず挑戦する勇気を得ることが出来ました。わからないことがあればわかるまで聞き続ける、ディスカッションではとにかく意見を出して積極的に参加する、などを英語で行おうとすることは最初は簡単ではありませんし、失敗してしまうことも少なくありません。しかし、その失敗は必ず次のチャンスで役に立ってくれます。実際に私も何度も失敗を繰り返して成長することが出来たと思います。これから留学する皆さんも、現地で何度も「失敗したらいやだなあ、怖いなあ」と感じるような機会に出会うと思います。しかし、そこで挑戦するという選択肢を選んでほしいです。そのチャンスを逃してしまえば、それはもう二度とやってくることはありません。だからこそ、短い留学期間の中でどんどんいろんなことに挑戦して、失敗して、それを次に活かしていくということを繰り返して成長していった欲しいなと私は思います。

皆さんの留學生活が実りあるものになることを願っています！